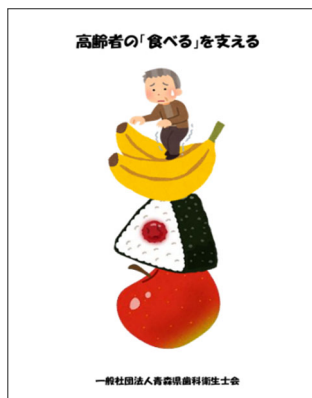


令和6年度 地域歯科衛生活動事業助成実施報告書



令和7年4月
公益社団法人日本歯科衛生士会
地域歯科保健委員会

公益社団法人日本歯科衛生士会
令和 6 年度地域歯科衛生活動事業助成交付要項

1 目 的

地域住民の歯科口腔保健の向上に関する事業をより一層推進するため、申請団体等の地域歯科衛生活動に対して助成金を交付する。本助成は「歯科口腔保健の推進に関する法律」の制定・公布（平成 23 年 8 月 10 日）を記念し、平成 24 年度から実施する。

2 対象団体

- (1) 「地域歯科衛生活動」事業を主催事業（共催等含む）として実施する都道府県歯科衛生士会。
- (2) 日本歯科衛生士会が指定する対象事業を、主催事業（共催等含む）として実施する団体または関係機関。

3 対象事業

地域住民の歯及び口腔の健康づくり、生涯を通じた歯科疾患の予防、口腔機能の維持・向上等、歯科口腔保健の推進に寄与する事業であること。

事業項目は、次のいずれかに該当するものとする。

- (1) 母子歯科保健事業
- (2) 学校歯科保健事業
- (3) 事業所歯科保健事業
- (4) 成人歯科保健事業
- (5) 障害(児)者歯科保健事業
- (6) 高齢者・要介護高齢者の歯科口腔保健事業
- (7) 食育推進事業
- (8) 多職種連携・協働による歯科口腔保健推進事業
- (9) その他歯科口腔保健推進事業

4 留意事項

- (1) 事業の実施内容及び実施方法が他の地域においても応用できるものであり、かつ普遍性の高いものであること。
- (2) 事業実施にあたり、可能な限り、行政、歯科医師会、教育機関など関係機関および団体等と連携や協力が得られるものであること。
- (3) 同一事業の申請は 3 年を限度とする。
- (4) 事業の成果については、歯科衛生だより、日本歯科衛生士会ウェブサイト等への掲載、また、オンデマンド配信による報告動画の作成を依頼することがある。
さらに、日本歯科衛生学会学術大会等での発表および学会雑誌への投稿を目指すものであることが望ましい。

5 事業実施期間及び交付額

- (1) 原則として、事業は 4 月 1 日以降に開始し、翌年 2 月末日までに完了すること。

- (2) 申請は各団体1件とし、事業助成件数は予算の範囲内とする。
- (3) 令和6年度の助成交付額は1件につき30万円以内とし、経費支出基準は別紙のとおりとする。

6 申請手続き

- (1) 助成金の交付申請を行う団体は、所定の書式に必要事項を記載の上、日本歯科衛生士会事務局宛に書留郵便、レターパックなど書類の追跡が可能な送付方法により、期限内に提出する。
 - ① 助成金交付申請書（様式1）
 - ② 予算内訳書（様式2）
- (2) 助成金交付申請書等の提出期限
令和6年3月15日（金）～令和6年4月10日（水）（必着）

7 助成団体の選定及び決定

地域歯科衛生活動助成事業審査委員会において審査選定し、理事会にて報告・承認後、助成団体を決定する。
なお、審査委員会の運営に関して必要な事項は別途定める。

8 助成金の返還

申請内容と異なる事実が生じた場合は、助成金の返還を求める。
また、事業が助成交付額より少額で完了した場合は、残額の返還を求める。

9 報告書の提出

- (1) 助成対象事業が完了した時は、所定の書式に必要事項を記載の上、日本歯科衛生士会事務局宛に書留郵便、レターパックなど書類の追跡が可能な送付方法により期限内に提出する。
 - ア 事業報告書（様式3）
 - イ 会計報告書（様式4）
 - ウ 助成対象経費を支払ったことを証明する領収書等原本の添付。
ただし、やむを得ない理由で原本提出が難しい場合は、写を可とする。
（その場合、領収書等原本は実施団体が保管し、保存期間は日本歯科衛生士会会計及び財産管理規程第22条の(3)証憑書類により7年とする。）
 - エ 写真、チラシ、パンフレット等、事業実施を確認する資料
 - オ 提出の事業報告書は、令和6年度地域歯科衛生活動事業助成報告書として、日本歯科衛生士会 WEB サイトに掲載する。
- (2) 提出期限 令和7年3月10日（月）（必着）

10 申請書及び報告書提出先

公益社団法人日本歯科衛生士会 地域歯科衛生活動助成事業審査委員会宛
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
電 話 03-3209-8020
E-mail jimukyoku@jdha.or.jp

令和 6 年度地域歯科衛生活動事業助成事業実施報告

令和 6 年度の事業助成は、令和 6 年 5 月 6 日に審査委員会による審査会を開催し 7 団体の活動計画に助成金を交付しました。各団体から提出の実施報告書をまとめましたので、今後の歯科保健事業の実施や地域活動の参考にご活用願います。

令和 6 年度地域歯科衛生活動事業助成交付事業一覧(7 団体)

事業実施期間：令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 2 月 28 日

※都道府県順に掲載

No.	実施団体名	助成対象事業	実施事業名	助成交付支出額
1	青森県 歯科衛生士会	(6)高齢者・要介護高齢者の 歯科口腔保健事業	高齢者施設で働く職員に対する口腔ケアに関する質問紙調査および 歯科衛生士が行う口腔健康管理に関する普及啓発事業	¥236,242
2	岩手県 歯科衛生士会	(7)食育推進事業	子どもの食べる力を育む口腔機能 向上普及啓発事業	¥300,000
3	茨城県 歯科衛生士会	(6)高齢者・要介護高齢者の 歯科口腔保健事業	～オーラルフレイル連携手帳を活用 して地域で支えあう～ 通いの場におけるオーラルフレイル 予防事業	¥297,632
4	兵庫県 歯科衛生士会	(5)障害児(者)歯科保健事業	「お口の歯援(しえん)・お悩み Q&A」事業 ～地域生活支援とネットワークのツール作成～	¥300,000
5	岡山県 歯科衛生士会	(9)その他歯科口腔保健推進事業	地域歯科衛生イベントに学生会員 参加を促し地域歯科保健に貢献する	¥234,079
6	山口県 歯科衛生士会	(6)高齢者・要介護高齢者の 歯科口腔保健事業	やるっちゃ山口！ 口腔衛生 令和維新！ STEP-2	¥287,207
7	愛媛県 歯科衛生士会	(6)高齢者・要介護高齢者の 歯科口腔保健事業	歯科口腔保健による地域支援活動 事業	¥300,000
	7 団体合計			1,955,155 円

令和6年度 地域歯科衛生活動事業助成交付事業報告(7団体)

No. 1 青森県歯科衛生士会

1	事業実施団体名 (共催団体名)	主催：一般社団法人青森県歯科衛生士会
2	事業名	事業名：高齢者施設で働く職員に対する口腔ケアに関する質問紙調査および 歯科衛生士が行う口腔健康管理に関する普及啓発事業 ☒ 単年度事業 ☐ 継続事業 (☐ 1年目・ ☐ 2年目・ ☐ 3年目)
3	対象者	介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム職員
4	事業内容	(1) アンケート調査：八戸市、三戸郡内の老人保健施設(老健)5か所、特別養 護老人ホーム(特養)5か所 調査人数：395名(老健職員149名、特養職員246名) 調査内容：口腔ケア、食事介助、誤嚥性肺炎、勉強会など (2) 勉強会の実施：勉強会希望の施設 4か所(老健3か所、特養1か所) 対象：施設職員(介護士、看護師) ・参加人数：32名 内容：口腔ケアの仕方について ・実施場所：各施設 (3) パンフレットの作成：『高齢者の「食べる」を支える』 高齢者の「食べる」を支えるために、各職種の視点でまとめた内容。
5	得られた成果	・高齢者施設の職員へのアンケートを行ったことにより、口腔ケア、食事介 助、誤嚥性肺炎の認識について知ることができた。 ・口腔ケアの仕方について、初めて指導を受け理解が深まった。困難事例につ いても直接指導を行ったことで、参考になったとの意見があった。
6	今後の課題	・令和6年度の介護報酬改定で老健、特養では、口腔ケアの体制が基本サー ビスに組み込まれることになったが、施設職員への勉強会を希望しない施 設もあり、口腔ケア体制づくりの取組みが不十分であることがわかった。 ・歯科衛生士の役割や歯科衛生士会を知ってもらうための、広報活動が必要 である。
7	事業実施日数	12日
8	従事者等	延41人(歯科衛生士36人、歯科医師1名、看護師1名、管理栄養士1名、 作業療法士1名、介護福祉士1名)
9	【活動の様子、作成物】  作成したパンフレット 施設職員への指導の様子 (困難事例の直接指導・勉強会) 施設職員との打合せ 歯科衛生士会打合せ	

No. 2 岩手県歯科衛生士会

1	事業実施団体名 (共催団体名)	主催：一般社団法人岩手県歯科衛生士会 共催：一般社団法人岩手県歯科医師会
2	事業名	事業名：子どもの食べる力を育む口腔機能向上普及啓発事業 ☐ 単年度事業 ☒ 継続事業 (☐ 1年目・ ☐ 2年目・ ☒ 3年目)
3	対象者	・実施人数 146人(4保育園：幼児130人、保育士16人) ・住民対象オンデマンド配信：再生回数 1,135回 ・指導動画：再生回数 218回
4	事業内容	(1) 委員会の開催 (Zoom開催) 2回 委員会構成員：6人 (2) 「お口あそび」を取り入れた保育園での歯科保健指導の実施 4か所 (3) 「お口育て」情報のオンデマンド配信による普及啓発 講師：富手(検討委員) https://iwate.jdha.or.jp/info/8517/ (4) 「お口遊び」歯科保健指導動画公開 https://iwate.jdha.or.jp/info/8625/ (5) オンデマンド配信に関するアンケート調査 回収数 58人 (6) 指導動画に関するアンケート調査 回収数 27人
5	得られた成果	・「お口あそび」を紹介した歯科保健指導の展開は、教育・保育関係者が「口腔機能」に関心を持つ機会となった。 ・食に課題のある園児を把握し具体的な提案を行ったことで、保育関係者が子どもの口腔機能の課題に気づき、園児の食の課題解決に取り組む動機づけになった。健康教育をする歯科衛生士にとってもスキルを深める場となった。 ・オンデマンド配信による普及啓発によって、多くの人に摂食機能の獲得と口腔機能の発達について理解をいただいた。 ・お口あそび指導動画の公開により、歯科衛生士や指導関係者が口腔機能に視点をおいた展開について知ることができた。
6	今後の課題	子どもの健康教育に携わる関係者が、口腔機能に視点をおいた歯科保健指導が展開できるよう、さらなる知識のアップデートのための普及啓発を図っていくことが必要と考える。
7	事業実施日数	62日
8	従事者等	延45人(歯科衛生士38人、歯科医師5人、言語聴覚士2人)
9	【活動の様子、作成物】	ふーふーコマ回し 食べる時どこが動いたかな？ 動画撮影風景

「お口育て」のオンデマンド配信

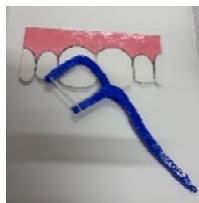
No.3 茨城県歯科衛生士会

1	事業実施団体名 (共催団体名)	主催：茨城県歯科衛生士会 共催：牛久市役所・牛久市社会福祉協議会、つくばみらい市役所
2	事業名	事業名：～オーラルフレイル連携手帳を活用して地域で支え合う～ 通いの場におけるオーラルフレイル予防事業 ☐ 単年度事業 ☒ 継続事業 (☒ 1年目・ ☐ 2年目・ ☐ 3年目)
3	対象者	サロン等に通う高齢者
4	事業内容	(1) オーラルフレイル連携手帳の作成 100部 (2) サロンにおけるオーラルフレイル予防教室の実施 2地区 ①牛久市奥野地区(オーラルフレイル予防教室として新規立ち上げ) 実施回数：4回(期間4ヶ月) 参加人数：延56名(1回目17名、2回目16名、3回目13名、4回目10名) 実施内容：講話、グループワーク、口腔機能検査、個別歯科保健指導 ②つくばみらい市伊奈東地区 実施回数：6回(期間6ヶ月) 参加人数：延82名(1回目14名、2回目14名、3回目14名、4回目12名、5回目14名、6回目14名) 実施内容：講話、口腔機能検査、個別歯科保健指導 ・オーラルフレイル連携手帳を使い、個々の口腔健康管理意識の聞き取りと口腔機能検査を行った。 ・教室開催期間中に歯科受診し、その結果を基に最終日に個別歯科保健指導を行った。次年度も同じ時期に一度口腔検査と個別相談を行い、定期歯科受診の確認と口腔健康管理に関する意識づけをする。
5	得られた成果	・定期的な歯科受診をしていなかった参加者が受診する機会になった。 ・口腔健康管理に対する意識が高まった参加者が多かった。 ・行政側から他の場所でも連携手帳を使いたいという申し出があった。 ・歯科医院に連携手帳を持って受診し、口腔診査をする時に、歯科医師に教室で記載した口腔機能検査結果を確認していただくことができた。
6	今後の課題	・一人でも多くの高齢者が口腔健康管理に関する意識を高く持って暮らせるよう支援するため、毎年、関わるサロンを増やし、手帳を持つ高齢者を増やしていきたい。3年間の活動で終わらせないよう、教室参加者の歯科受診の実績や口腔健康管理の意識の変化等のデータを基に、歯科医師会や行政に結果を示すとともに予算を確保し、継続事業とすることを目指したい。 ・参加者に毎回出席を求めることがなかなか難しく、今後工夫が必要と考えている。 ・手帳を忘れてくる参加者が一定数いることへの対策が必要である。
7	事業実施日数	10日
8	従事者等	延90人(歯科衛生士53人、保健師8人、栄養士3人、社会福祉士2人、シルバーリハビリ運動指導士24人)
9	【活動の様子、作成物】  ●オーラルフレイル連携手帳● 歯っぴーらいふノート (公社)茨城県歯科衛生士会 オーラルフレイル連携手帳  健康講話の様子  口腔機能検査の様子 <オーラルフレイル連携手帳の記載内容> ・口腔機能を維持するための対策について記載 ・オーラルフレイルチェックシート、口腔健康管理への意識の変化 ・口腔機能検査結果の記入(咀嚼能力判定・オーラルディアドロキネシス) ・歯科受診結果の記入 など *教室参加時に持参してもらい、教室修了時の個別歯科指導に活かす。	

No. 4 兵庫県歯科衛生士会

1	事業実施団体名	主催：公益社団法人 兵庫県歯科衛生士会
2	事業名	事業名：「お口の歯 ^{しえん} 援・お悩みQ&A」事業 ～地域生活支援とネットワークのツールの作成～ ☒ 単年度事業 ☐ 継続事業（ ☐ 1年目・ ☐ 2年目・ ☐ 3年目）
3	対象者	児童発達支援センター等に通所している地域で生活するスペシャルニーズの子どもおよび保護者や支援者等 4名
4	事業内容	令和6年度より「地域生活支援拠点・ネットワーク運営推進事業」が適用され、緊急時に備えるための相談支援、専門的知識および技術を有する人材の育成と確保、連携体制の構築が必要となる。当会活動における長年の課題であるスペシャルニーズの子どもおよび家族や支援に関わる方々に向けて、歯科疾患だけでなく口腔機能等に関して多く見受けられる課題をQ&A方式でまとめ、歯科的課題のある子どもにも広く活用するため冊子を作成した。 (1) 児童発達支援センターに通所しているスペシャルニーズの子どもの保護者に口腔の課題の聞き取りを行った。 (2) 口腔の健康に関する質問、悩みや課題解決に向けた媒体の作成に向けて、県内および全国的な情報を収集する連絡会議を2回開催した。 (3) ワーキング会議を2回開催し、歯科医師から専門的な情報を得てQ&A形式の冊子等を検討し、作成会議に反映した。 (4) 西宮すなご医療福祉センターにおいて2月末に事業を実施する予定であったが、都合により3月に変更となった。 (5) 冊子の活用方法について、各センターの生活支援員に説明をした上で、事業を行う。
5	得られた成果	・スペシャルニーズの子どもおよび保護者や支援者の口腔衛生および口腔機能管理に関する意識が向上することで、早期にかかりつけ歯科医を持ち歯科受診につながる。 ・関係機関への配付や専門的人材育成の教材として広く活用することで、地域生活支援ネットワークづくりの推進につながる。 ・スペシャルニーズの子どもに限らず、子ども全般において、保護者が抱えている歯科的課題を解決できる冊子となっていることから、子どもを取り巻くどのような場面においても活用することができる。
6	今後の課題	・県下には、兵庫県立こども発達支援センターが1施設および児童福祉法に基づく県下の障害児施設が42施設あり、全県的に周知する必要がある。 ・市町の乳幼児健診等において、歯科衛生士が行っている歯科保健指導の機会に歯科的課題を抱えている保護者をサポートする情報媒体として、指導に活用する必要がある。 ・モデル実施後に全県民に配付するには、予算の確保が必要となる。予算の確保が難しいことから、ホームページに掲載し広く関係者に活用してもらう予定である。 ・全県的な普及には、本会10支部活動の一環として、施設訪問や様々なイベント等において歯科保健指導を行う指導媒体として活用する必要がある。
7	事業実施日数	7日
8	従事者等	延37人（歯科医師5人、歯科衛生士32人）
9	【活動の様子、作成物】	 ワーキング会議の様子 西宮すなご医療福祉センター児童発達支援事業「ねっこ」にて、作業療法士による訓練に参加中の未就学児とその保護者に向けてお口の歯援お悩みQ&Aを使用した講話、歯科相談を実施した。発達に困難さを抱える子どもたちとその保護者に、歯科に関する情報をお伝えした。 

No. 5 岡山県歯科衛生士会

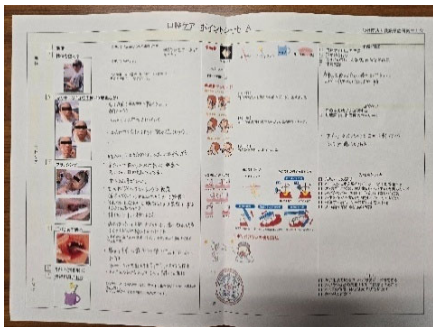
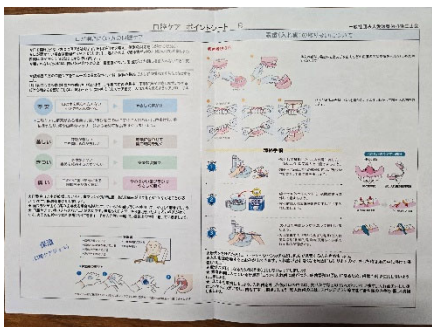
1	事業実施団体名 (共催団体名)	主催：一般社団法人 岡山県歯科衛生士会
2	事業名	事業名：地域歯科衛生イベントに学生会員参加を促し地域歯科保健に貢献する □単年度事業 ☒ 継続事業 (□1年目・ ☒ 2年目・ □3年目)
3	対象者	地域歯科衛生イベントに参加する地域住民
4	事業内容	(1) 会議の開催 1回 (執行部6名が出席) 媒体づくりの進め方や内容、講師について検討した。 (2) 打合せ会の実施 4回 1回目 具体的な内容、準備物について (講師、担当者4名) 2回目 役割分担、グループワークのテーマ決め (講師、担当者6名) 3回目 材料選定、媒体の型作り (講師、担当者6名) 4回目 媒体の下準備 (講師、担当者3名) (3) イベント開催当日 参加者：講師2名、会員18名 (内学生会員3名) 午前：媒体づくり (糸ようじ・歯肉プレート・あいうべカード) 午後：グループワーク「媒体づくりをするために」 妊産婦、大学生、男子中学生、定年間際のサラリーマンをテーマに、それぞれの指導内容や媒体について話し合い発表した。 (4) 岡山県歯科医師会へ報告、次年度の依頼
5	得られた成果	学生会員にも参加してもらい、地域歯科衛生イベントに参加する地域住民に対する歯科衛生指導用媒体を作成することができた。
6	今後の課題	・実際に地域歯科衛生イベントへの学生参加を促す ・イベント参加者へのアンケート、学生へのアンケートを実施し、フィードバックする。
7	事業実施日数	7日
8	従事者等	延40人 (歯科衛生士40人)
9	【活動の様子、作成物】   媒体作成の様子    グループワーク発表の様子   ①歯肉プレート ②糸ようじ  ③あいうべカード  ④糸ようじと歯肉プレート	

<作成した媒体>

No. 6 山口県歯科衛生士会

1	事業実施団体名 (共催団体名)	主催：山口県歯科衛生士会
2	事業名	事業名：やるっちゃ山口！口腔衛生 令和維新！ STEP-2 □単年度事業 ☒ 継続事業 (□1年目・ ☒ 2年目・ □3年目)
3	対象者	介護施設従事者 (口腔ケア担当者)
4	事業内容	(1) 講座を行うための PowerPoint による資料内容の検討・作成 実施回数：2回 (会場：山口健康づくりセンター) 参加人数：講師希望者 延 32 人 (2) 各自パソコンを持ってきて、様々なプロジェクターと接続 実際に資料を見ながら講座をするシミュレーションを実施 実施回数：1回 (会場：山口菜香亭) 参加人数：講師希望者 14 人 (3) 講演会の開催 1回 (会場：山口健康づくりセンター) テーマ「認知症の方の口腔ケアと食支援」について 講師：東京都健康長寿医療センター 枝広あや子先生 受講者数：講師希望者 14 人 (4) 初年度に作成した口腔ケア冊子と歯ブラシ、歯間ブラシ、ケアスポンジ やジェルのサンプルを、各施設で口腔ケアを担当されている看護師や介 護士に配布し、口腔ケアの重要性や方法を講座で指導した。その後、実 際に困っている事例の OJT を実施した。 実施回数：19 回 (会場：各高齢者施設) 参加人数：口腔ケア担当者 14 人
5	得られた成果	・講座を実施した高齢者施設の高齢者の口腔環境の改善 ・口腔ケアと全身疾患との関連について、実際に口腔ケアに関わるスタッフ に周知いただくことで、糖尿病の HbA1c の変化にも興味を持てただけ るようになった ・これまで会員内での講師経験者は数人だったが、今回の講師育成により、県 内満遍なく講師の依頼に対応できるようになった ・PowerPoint ができなかった年配の会員が、これを機に挑戦してできるよう になったとの喜びの声があった。
6	今後の課題	・まだ 19 か所の施設しか実施できていないため、今後も施設派遣を継続し、 一つでも多くの介護施設を回り正しい口腔ケアの手技を伝授していく。 ・講演依頼に応じて、資料作成を会員自身で作成していけるように研修の機 会を設ける。
7	事業実施日数	23 日
8	従事者等	延 79 人 (歯科衛生士 79 人)
9	【活動の様子、作成物】   口腔ケア講座の様子	

No. 7 愛媛県歯科衛生士会

1	事業実施団体名 (共催団体名)	主催：一般社団法人愛媛県歯科衛生士会
2	事業名	事業名：歯科口腔保健による地域支援活動事業 □単年度事業 ☒ 継続事業 (□1年目・ □2年目・ ☒ 3年目)
3	対象者	地域ケア会議参加者 介護施設職員
4	事業内容	(1) 地域ケア会議への参加 2回(場所：松前町) 自立支援に向けて専門職の立場からの助言 (2) 事業打合せ会 7回 参加人数：14人 セミナー開催とポイントシートの内容について検討 (3) 口腔ケアガイダンスセミナー開催 1回(会場：歯科医師会館) 参加人数：19人 実施内容：口腔ケアの重要性と基本についての講話、スポンジブラシ使用法の実習、口腔ケアポイントシートの作成・仕上げ アンケートの実施 (4) 出張無料相談 2施設 老人保健施設 若水ケアセンター (参加人数：施設職員 8人) 特別養護老人ホーム特養 光風館 (参加人数：14人) 実施内容：講話、現状確認、実技デモ・指導、アンケート実施
5	得られた成果	・ 地域ケア会議へ参加し、高齢者の口腔の健康について助言したことで、適切なサービス提供につなげることができた。 ・ 施設職員が自分自身でポイントシートを仕上げることで、自施設での問題点や状況が明確になり、適切なケアの実施ができるようになった。
6	今後の課題	・ 施設等で指導する歯科衛生士の育成 ・ 施設への継続した指導
7	事業実施日数	5日
8	従事者等	延 19 人 (歯科衛生士 19 人)
9	【活動の様子、作成物】  口腔ケアガイダンスセミナー  無料出張相談の様子  セミナー資料 (ポイントシート A)  セミナー資料 (ポイントシート B)	

